

クモ類

池田博明（日本蜘蛛学会）・谷川明男（東京大学大学院・農学生命科学研究科）

神奈川県産クモ類が目録としてまとめられたのは、1995年であった（熊田・池田・谷川 1995）。その後、丹沢大山の総合調査の結果が報告され（新海栄一ほか 1997）、神奈川県と近隣の地域とのクモ相の比較が可能になった。しかし、クモでは日本全土にわたる分布調査はほとんどなされておらず、レッドリストに挙げるべき種の選定に関しても、科学的な根拠は不十分であった。しかし、2004年に新海明・安藤昭久・谷川明男により、膨大な文献を渉猟した「県別クモ類分布図 ver. 2004」がまとめられ、日本全土の種ごとのクモの分布データの検索が可能となった結果、ようやくレッドリストに関しても定性的な論議が可能な状況が整いつつある。

今後の神奈川県産のレッドリストは、上記の文献と2004～2005年にわたる各地での筆者の調査の結果を勘案して、種の選定を行った。カテゴリー判断の基準は昆虫に準じた。

引用文献

- 熊田憲一・池田博明・谷川明男, 1995. 神奈川県産クモ類目録. *Kishidaia*, 68: 1-48.
 新海明・安藤昭久・谷川明男, 2004. 県別クモ類分布図 Ver. 2004. 著者自刊 CD.
 新海栄一・山川守・熊田憲一・池田博明・谷川明男・貞元巳良, 1997. III. クモ類. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 612-620.
 山川守・熊田憲一, 1979. 丹沢山塊の真正クモ類 II. *Atypus*, 74: 1-14.

●ジグモ科

ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch (ジグモ科)

県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類 国カテゴリー：準絶滅危惧
 判定理由：過去には、県内4ヶ所から生息記録があるが、現在ではそれらの地点でも生息を再確認することのできない場合があり、健全な生息地は激減してしまった。
 生息環境と生態：耕作地の周辺や寺社の境内などの地面に縦穴を作成している。
 生息地の現状：外見上の変化は見られないにもかかわらず、生息が確認できなくなった地点がある。開発以外にも本種の生息を脅かす要因が存在する可能性があるが、現時点では、つきとめることはできていない。
 存続を脅かす要因：開発
 県内分布：横浜市、逗子市、平塚市、中郡
 国内分布：北海道、本州、九州

●ヒメグモ科

シロタマヒメグモ *Enoplognatha margarita* Yaginuma (ヒメグモ科)

県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息しており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。
 生息環境と生態：寒冷な気候の林縁部の草本や林内草本層に生息している。
 生息地の現状：1997年の調査では生息が確認されているが、

それ以後の確認記録はない。
 存続を脅かす要因：気候の温暖化
 県内分布：丹沢山地山梨県境付近
 国内分布：北海道、本州（中央高地）
タカネヒメグモ *Rugathodes nigrolimbatus* (Yaginuma) (ヒメグモ科)
 県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息しており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。
 生息環境と生態：寒冷な気候の林縁部の草本や林内草本層に生息している。
 生息地の現状：1997年の調査では生息が確認されているが、それ以後の確認記録はない。
 存続を脅かす要因：気候の温暖化
 県内分布：丹沢山地山梨県境付近
 国内分布：北海道、本州

●サラグモ科

キヌキリグモ *Herbiphantes cericeus* (S. Saito) (サラグモ科)

県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息しており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。
 生息環境と生態：寒冷な気候の草本層や低木層に生息している。
 生息地の現状：1997年の調査では生息が確認されているが、それ以後の確認記録はない。
 存続を脅かす要因：気候の温暖化
 県内分布：丹沢山地山梨県境付近
 国内分布：北海道、本州

ハンモックサラグモ *Nerienne angulifera* (Schenkel) (サラグモ科)

県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息が確認されており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。
 生息環境と生態：寒冷な気候の、林縁部の高茎草本や低木、林内の草本層上部や低木層の空間に造網している。
 生息地の現状：1979年の記録以後、確認記録がない。
 存続を脅かす要因：気候の温暖化
 県内分布：丹沢山地山梨県境付近
 国内分布：北海道、本州、九州

コシロブチサラグモ *Nerienne marginella* (Oi) (サラグモ科)

県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息しており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。
 生息環境と生態：寒冷な気候の、林縁部の草本や林内草本層の空間に造網している。
 生息地の現状：1997年の調査では生息が確認されているが、それ以後の確認記録はない。
 存続を脅かす要因：気候の温暖化
 県内分布：丹沢山地山梨県境付近
 国内分布：北海道、本州、九州

カナコキグモ *Tapinopa guttata* Komatsu (サラグモ科)

県カテゴリー：注目種
 判定理由：丹沢山地の山梨県境付近にのみ生息しており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われる

と、絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の、林縁部や林内の地表部に造網している。

生息地の現状：1997年の調査では生息が確認されているが、それ以後の確認記録はない。

存続を脅かす要因：気候の温暖化

県内分布：丹沢山地山梨県境付近

国内分布：北海道、本州

●アシナガグモ科

ミドリアシナガグモ *Tetragnatha pinicola* L. Koch (アシナガグモ科)

県カテゴリー：注目種

判定理由：丹沢山地の山梨県境付近でのみ生息が確認されており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の、草原、林縁部の草本や低木、林内の草本層や低木層の空間に造網している。

生息地の現状：1979年の記録以後、確認記録がない。

存続を脅かす要因：気候の温暖化

県内分布：丹沢山地山梨県境付近

国内分布：北海道、本州、四国、九州

●コガネグモ科

コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch (コガネグモ科)

県カテゴリー：要注意種

判定理由：過去には、県内に広く、また多数生息していたものと思われるが、現時点では生息を確認することのできる地点がかなり減少している。本種の生息環境は主に高茎草地であるが、そのような土地は人間生活にとって利用しやすい場所であるので、開発とともに急速に失われつつある。

生息環境と生態：高茎草地の空間に造網している。

生息地の現状：県東部では、生息適地が急速に失われており、確認個体数は激減している。中部、西部では、東部よりは多少良い状況である。

存続を脅かす要因：-なし-

県内分布：県内の低地全域

国内分布：本州、四国、九州、沖縄島以北の南西諸島

●タナグモ科

イナズマクサグモ *Agelena labyrinthica* (Clerck) (タナグモ科)

県カテゴリー：注目種

判定理由：丹沢山地の山梨県境付近でのみ生息が確認されており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の、草地や林縁部の草本などの低い位置に造網している。

生息地の現状：1979年の記録以後、確認記録がない。

存続を脅かす要因：気候の温暖化

県内分布：丹沢山地山梨県境付近

国内分布：北海道、本州、四国、九州

●ホウシグモ科

ドウシグモ *Asceua japonica* (Bösenberg & Strand) (ホウシグモ科)

県カテゴリー：準絶滅危惧 国カテゴリー：情報不足

判定理由：これまで県内で生息が確認された地点は5ヶ所のみである。樹齢の高い木の幹の表面に生息しているので、生存にはそのような樹木の存在が不可欠であると思われる。

生息環境と生態：樹齢の高い樹木の幹の表面を徘徊している。生息地の現状：既知産地はおおむね良好な状態に保たれている。

存続を脅かす要因：開発、樹木の伐採

県内分布：逗子市、座間市、相模原市、津久井郡、伊勢原市

国内分布：本州、四国、九州

●エビクモ科

コガネエビクモ *Philodromus aureolus* (Clerck) (エビクモ科)

県カテゴリー：注目種

判定理由：丹沢山地の山梨県境付近でのみ生息が確認されており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の、林縁部の草本や低木、林内の草本層や低木層に生息している。

生息地の現状：1979年の記録以後、確認記録がない。

存続を脅かす要因：気候の温暖化

県内分布：丹沢山地山梨県境付近

国内分布：北海道、本州、九州

スジシャコグモ *Tibellus oblongus* (Walckenaer) (エビクモ科)

県カテゴリー：注目種

判定理由：丹沢山地の山梨県境付近でのみ生息が確認されており、気候の温暖化によって生息に適する気候条件が失われると、絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の、草原や林縁部の草本、林内の草本層に生息している。

生息地の現状：1979年の記録以後、確認記録がない。

存続を脅かす要因：気候の温暖化

県内分布：丹沢山地山梨県境付近

国内分布：北海道、本州、四国

●カニグモ科

ヒメハナグモ *Misumena vatia* (Clerck) (カニグモ科)

県カテゴリー：注目種

判定理由：箱根仙石原湿原のみで生息が確認されているが、確認個体数は少ない。湿原環境、気候条件が失われると絶滅してしまう恐れがある。

生息環境と生態：寒冷な気候の草原に生息している。

生息地の現状：現時点ではおおむね良好に保たれている。

存続を脅かす要因：開発、気候の温暖化

県内分布：仙石原湿原

国内分布：北海道、本州、九州